

1) 過去問題の傾向と対策

①有名出典からの出題が多い。過度な難問はなく、分量も標準的。

↓ まずは高校・予備校での授業内容の消化を。

↓ 文学史の出題有無に関係なく、**国語資料集**などを通じて有名出典の知識・特徴をつかんでおく。

②知識問題が比較的多く、取りこぼしに注意。特に助動詞に関係する出題が多い。

↓ しっかりと基本を身につけた受験生は報われる。

↓ **二五年度入試では本文読解の難易度は低くなかったが、基礎知識があれば対応できる設問も多かった。**

③解釈問題・内容説明・内容合致問題の出題もある。

↓ **選択肢に頼らずに考える解答姿勢が重要。出題意図を考えることが大切。**

↓ **語彙力の増強を怠らないこと。頻出語句の出題も多い！古文単語集を完璧に！**

④直前期の仕上げ

↓ 現代文との時間配分を考慮し、直前期には**20～25分間で古文を解くこと**を目標にして過去問演習をするのがよい。**(設問数は標準～やや多めなので時間配分に注意してください)**

2) 具体的な勉強方法 徹底した基礎固めと毎日の学習を！

①古典文法(1)・・・助動詞の理解。《最重要》

↓ 意味・活用だけでなく接続まで、活用表をきちんと理解すること。

↓ **もつと基礎的な「用言に関する文法問題」も出題されるので、高一・高二レベルの基礎固めも忘れずに。**(例…二五年度入試の問一など)

②古典文法(2)・・・敬語の理解。

↓ 敬意の対象を問う問題への対応だけでなく、読解のためにも必須。

③古文単語・・・古文単語集を最低3周。

↓ 単語集だけでなく、**読解問題演習の中で触れた単語を憶えるようにする**と効果的。

④読解演習…他の日程の出題も似たような形式なので、**東洋大の過去問対策が有効。**

↓ 過去問のほかにも、読解問題集の「基礎～標準レベル」の問題に数多く取り組むとよい。

☆ 古典文法・古文単語・古典常識の知識をしっかりと身につけて問題演習を積み、必ず読めるようになる。安易な解法テクニックに頼らず、きちんと「読む」ことを心がけよう。

●過去問解説 解答

2 0 〓 ③	2 1 〓 ①	2 2 〓 ②	2 3 〓 ①	2 4 〓 ⑥	2 5 〓 ⑧	2 6 〓 ①	2 7 〓 ⑨
2 8 〓 ⑦	2 9 〓 ⑤	3 0 〓 ②	3 1 〓 ①	3 2 〓 ③	3 3 〓 ①	3 4 〓 ③	3 5 〓 ③
3 6 〓 ②	3 7 〓 ⑤	3 8 〓 ③	3 9 〓 ③	4 0 〓 ②			

・現代語訳例は「TOYOWebStyle」内で閲覧できますのでそちらをご参照ください。

●本文の流れ

- ① 女（和泉式部）、悲観的な和歌を送り、心情を訴える。
←
- ② 帥の宮、女の訴えに応える（和歌の贈答）。
←
- ③ 帥の宮、自ら女のもとを訪れ、迎える。
←
- ④ 女、帥の宮の言葉に従い、供を一人つけて同行。帥の宮邸に入る。
←
- ⑤ 女、邸内では格子を下ろし、人目を避けて帥の宮に対応する。
←
- ⑥ 帥の宮、女を北の対へ移そうと計らう。
←
- ⑦ 女房たちの間でも騒ぎが広がる、北の方に告げる。
←
- ⑧ 北の方が不機嫌になり、帥の宮に不快感を伝える。
←
- ⑨ 帥の宮、北の方に言い訳を述べる。